

## 組織委員長よりのご挨拶



国際ベイズ分析学会 (International Society for Bayesian Analysis, ISBA) 世界大会が日本の京都で開催されるにあたり、大会組織委員会を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

京都大会は「ベイズ理論の発展と現代社会への貢献」をメインテーマとして、生物、医療、環境、IT、ファイナンス、マーケティングなど多方面におけるベイズ理論の貢献を目的としています。ベイズ理論に関係する国際的な活動の一つとして、1979年以来ベイズ理論に関する研究交流を目的とした国際バレンシア研究集会が4年ごとに開催されてきました。第1回の研究集会には統計数理研究所の故赤池弘次教授が世界的に有名な赤池情報量規準(AIC)の論文を発表され、その後京都賞を受賞されたことは記憶に新しいところです。以後、ベイズ理論の実社会への応用は膨大な数に上り、応用範囲もきわめて広範囲に拡大してきています。国際バレンシア研究集会は主催者の引退にともなって2010年の大会が最後となり、新たにISBA世界大会として2年ごとに世界各地で開催されることになりました。開催地は投票で決定され、2012年に日本の京都で開催されることになりました。京都大会は初めてアジアで開催される大会です。そこで、アジア諸国、特に開発途上国の若手研究者と大学院生に大会への参加を奨励するため旅費等の支援を行うとともに、創立20周年を記念した事業を行う予定です。

この20年目の記念すべき節目にアジア初のISBA世界大会を千年の都、京都において開催できることは日本人として誇りであるとともに、日本およびアジアにおいてベイズ理論の普及を促すまたとない機会であると考えます。ISBA世界大会京都開催を成功させるべく組織委員会一同尽力してまいりますので、ご支援・ご協力を賜りますように、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

ISBA世界大会組織委員長  
京都産業大学経済学部教授

和合 肇